

01 イチョウ 二十四軒手稲通〔花回廊〕

二十四軒手稲通には街路樹としてイチョウが植えられています。また、中央分離帯には、シャレーポピーなどが植えられ、「花回廊」と名付けられています。花が満開となる6月下旬から7月ごろには、赤や青の花の帯が連なり、通行する人々の目を楽しませます。

イチョウ：イチョウ科の落葉高木。排気ガスなどの公害に強く、全国的に多く使われている街路樹で、札幌市でも2番目に多い街路樹となっている。種子はギンナンと呼ばれ、食用として利用される。

ほかにイチョウが植えられた道路：稲荷通（JR函館線から下手稲通間）など



写真
右上・下：西町北16丁目付近の「花回廊」(右上)と街路樹のイチョウ(下)
左上：宮の沢児童会館付近のイチョウ

西区 街路樹 マップ

ふと街角で足を止め、たたずんだとき、四季の移り変わりを身近に見せてくれる街路樹。今月号では、区内の街路樹の見どころをご紹介します。



都市景観の向上

春には花や新緑が、夏には色濃い緑が、秋には色鮮やかな紅葉が、人々の目を楽しませ、四季それぞれの季節感を醸し出し、街に彩りを添えます。

街路樹の役割

街路樹は、ガードレールや標識などのほかの道路施設と異なり、街に潤いや安らぎを与えてくれるものです。

都市環境の改善

夏の緑の樹冠は強い日差しを遮って涼しい木陰をつくり、街をわたる風を和らげます。葉からは酸素を放出し、大気の浄化に役立つほか、防音や防じんにも効果があります。

また、街路樹は、道路環境ばかりではなく、都市全体の環境の改善に大きな効果をもたらします。

交通安全の確保

ドライバーの視線を柔らかく導き、対向車のライトのまぶしさを遮るなど、走りやすい安全な道路にします。また、ドライバーの疲労軽減にも役立ちます。

体の環境の改善に大きな効果を持ち、都市の緑地を構成する重要な要素でもあります。